

令和 2 年 9 月 16 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11557

研究課題名(和文) 准看護師制度の現状分析にもとづく新たな看護職養成・資格制度モデルの開発

研究課題名(英文) Developing the new model of nurse training program/qualification system on the basis of the current state analysis for the assistant nurse system in Japan and other countries.

研究代表者

林 千冬 (Hayashi, Chifuyu)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60272267

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本と諸外国における准看護師制度の現状分析にもとづき、新たな看護職養成・資格制度モデルを開発することである。日本の准看護師制度には、准看護師が看護師と同様の業務を行うことができるという矛盾と、地域包括ケアに求められる能力の育成が困難だという問題があるASEAN諸国は看護基礎資格を一本化する方針であり、英国でも准看護師制度を復活する兆しは全くない。英国で新設されたNursing Associate制度の分析をふまえて、わが国においては、看護基礎教育の一本化と、看護師課程との連続性を担保した公的な看護補助者養成制度との組み合わせが最も合理的であると考えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本と諸外国における准看護師制度の現状分析にもとづき、新たな看護職養成・資格制度モデルを開発した。日本の准看護師制度は、法制度面でも教育課程としても問題山積である。これらの解決方策を、諸外国の動向を参考に検討した結果、わが国の看護職資格・養成制度は、准看護師養成停止によって一本化し、併せて、看護師課程との連続性を担保した公的な看護補助者養成制度を新設し補完することが合理的であると考えた。

研究成果の概要(英文)：The study aims to develop the new model of nurse training program/qualification system on the basis of the current state analysis for the assistant nurse system in Japan and other countries. In the Japanese assistant nurse system, assistant nurses have issues such as a contradiction to work for the same nursing jobs as registered nurses and also a difficulty to foster a skill development required in integrated community care. ASEAN countries will introduce a policy to unify basic qualifications of nurse while there is no sign of reinstatement for the assistant nurse system in UK at all. In the light of the Nursing Associate System newly established in UK, it is considered that the combination of a unified nursing basic education and an official nursing assistant training system as ensuring continuity with nursing courses could be the most rational choice in Japan.

研究分野：看護管理学

キーワード：准看護師 養成・資格制度 看護補助者 英国 ASEAN

1. 研究開始当初の背景

わが国の看護職の養成・資格制度（以下、看護制度）は、1951年以降今日まで、基礎部分が看護師と准看護師との養成制度に二元化されたままである。准看護制度については、日本看護協会や当事者団体が1970年代以降一貫して廃止（養成停止）を訴えているが、准看護養成所の経営者を会員に擁する日本医師会は、一貫して制度存続を主張している。制度存廃は長らく様々な検討会で議論されてきたが決着がつかないまま、今日まで存続している。

この間、准看護養成所の学校数・学生定員、志願倍率は減少してきている。しかし、慢性的な看護職員不足の中で、看護職員確保の方策として単純に准看護師養成を拡大すべきだという意見は相変わらず根強い（赤枝，2014；松田，2014；）。さらに、政策関係者からは准看護師の介護分野での活用を提言する声もある。

2. 研究の目的

(1) 我が国の准看護制度の現在の意義と課題について、准看護師を10年以上経験したのち看護師2年課程通信制を卒業し、現在看護師として働く者の声から明らかにする。

(2) 看護制度創世期にあるASEAN諸国ならびに先進諸国の、2nd Levelの看護職養成制度の現状について明らかにする。

(3) 以上から、今日の准看護制度をめぐる日本と諸外国の状況を明らかにし、両者の比較検討を通して、日本の准看護制度の今後の方向性を探究する。このことを通して最終的に、今後の日本にとってより合理的かつ実現可能な看護制度モデルを提言する。

3. 研究の方法

(1) 看護師2年課程通信制卒業生からみた准看護師制度の意味（平成28～30年度）

准看護師として就業経験後に看護師2年課程通信制を卒業し就業している看護師が、准看護師時代にどのような経験をし、2年課程卒業を経てそれがどのように変わったと感じているのかを明らかにすることを目的に、半構造化インタビュー法を用いた質的記述的研究とした。研究参加候補者の紹介は、准看護師の全国組織「A研究会」に依頼。同会総会の承認を得て紹介された全員に研究協力依頼を郵送。希望者に口頭で説明の後、同意が得られたものを研究参加者とした。インタビューでは、准看護師時代の経験、進学動機、進学先での学び、卒業後現在までの経験について自由に語ってもらった。データ収集期間は2016年12月～2018年6月。データ分析では、逐語録からコードを作成し類似性と相違性に着目しサブカテゴリー・カテゴリーを抽出した。

(2) 海外における2nd Levelの看護職養成制度

1) ラオス、ベトナムの看護職養成制度（平成27年度）

2015年8月、ラオスとベトナムに訪問し、両国の看護師養成制度ならびにセカンドレベル看護師の実情についてヒヤリングを行った。ラオスにおいては、中核病院であるマホソッ

ト病院において、病院の看護職員構成・教育・業務などについて見学をしたのち、国連人口基金ラオスセンターとラオス保健省において、ラオスの看護資格制度改革と看護職能 団体開設の動向についてヒヤリングを行った。

2) インドネシアにおける准看護師養成停止（平成 29 年度）

2017 年 1 月、インドネシア・ジャカルタにおいて、看護師養成校教員・学生、病院の看護教育担当者、民間病院で働く准看護師に対し、聞き取り調査ならびに資料収集を実施した。

3) 英国における准看護婦（Enrolled Nurse：EN）養成停止後の状況（令和元年度）

2019 年 5 月、英国看護師協会、看護系大学、公的病院教育関係者にインタビューを実施。

4．研究成果

(1) 看護師 2 年課程通信制卒業生からみた准看護師制度の意味

研究参加者は 30 代から 70 代までの 11 名。准看護師時代の経験については 15 サブカテゴリー・8 カテゴリー が、卒業後の経験については 20 サブカテゴリー・8 カテゴリーが抽出された。研究参加者は准看護師時代、【漠然とした不全感がある】中で【知識不足に苦しむ】み【力不足と責任の重さに恐怖を覚える】、なおかつ【自律した働き方がわからない】中で【都合よく使われることに矛盾を感じ（る）】ていた。そんな中でも【もどかしさの中で苦闘（する）】しつつ【制約の中でも努力（する）】しており、にもかかわらず、【准看護師だからと軽視される】経験もしていた。一方、2 年課程通信制を卒業することにより、【准看護師時代の看護が間違っていなかったことを確認でき（た）】、【自立して看護計画が立てられるようになった】り、【根拠にもとづく看護が提供できるようになった】ことで、【自律して看護の責任を果たせるようになった】と感じていた。さらに、【学び続ける意欲が高ま（った）】り【学び続ける姿勢が身に付（いた）】くと共に【キャリアの可能性が広がった】。これらを通して、【准看護師ゆえの心理的苦痛から解放された】ことが研究参加者から語られた。

准看護師教育が専門職に不可欠な自律性の育成、看護独自の思考過程や計画立案の能力育成を欠落させている問題、その欠落の補完がもたら本人たちの苦闘と努力のみに委ねられている問題が明らかになった。こうしたあり方は、貴重な看護人材の養成方法として非効率であると言わざるを得ない。なお、調査参加者の卒業後の就業経過は、70 歳代の 2 名を除いては 60 歳を越えた者も含めて常勤で就労している者がほとんどで、通信制卒業者はセカンドキャリアにおいても十分社会に貢献していることがうかがえた。

(2) 海外における 2nd Level の看護職養成制度

1) ラオスの現在の看護師養成制度は、1 校のみある大学での 4 年、上級看護師の 3 年、それ以外は 2.5 年である。看護職員数じたいが不足・偏在している中で、とりわけ地方での看護職員確保のためには、現状では看護師養成の複線化を認めざるを得ず、ただしその際には、

いかに業務の内容や範囲に応じた教育を保障するかが課題となる。ラオスは現在、日本の保健師助産師看護師法に相当する法制度を立案中であり、ASEAN の基準に沿って、看護師養成も一本化の方向である。そうした中で今後は、地方によって異なる資格制度をどのように一本化するかが模索されていくことになるとのことであった。

ベトナムにおいては、ダナン大学看護学部を訪問し、ベトナムの看護教育制度について、複数名の大学看護学部教員にヒヤリングを行った。現在、ベトナムの看護教育課程には4年、3年、2年の3種類があり、地方では2年コースがまだ主流である。しかし教育年限の違いと資格免許の違いとは関連せず、ベトナムの看護基礎資格は看護師一本であり、近い将来はラオスと同様、ASEAN の基準に沿って看護師養成制度も一本化する方向とのことであった。

2) インドネシアにおける准看護師養成停止

2017年1月、インドネシア・ジャカルタにおいて、看護師養成校教員・学生、病院の看護教育担当者、民間病院で働く准看護師に対し、聞き取り調査ならびに資料収集を実施した。

インドネシアにおいては、看護教育制度改革の流れの中で、1999年に准看護師養成停止が決定し、2003年には養成校が廃止された。就業准看護師については、当面の間の就業保障はしたが、2014年には免許の廃止が予告され、2019年からは実際に免許が失効することになっている。なお、看護師養成は保健省から文科省に移管され、今後は、高卒1年コースのナースエイド養成（免許なし）と、3年以上の看護師養成に区分するとのことであった。

インドネシアでは近年、看護師免許所持者が年々増加している。地方部でこそ就業者の20～40%程度を占めるに過ぎないが、都市部や大学病院ではすでに100%が看護師である。何よりも、インドネシア全体では看護職員は供給過剰である。このように人材確保がなされていること、つまり、看護職員不足ではないという背景が、インドネシアの准看護師養成制度の停止を可能にしたのだと考えられた。

(3) 英国における准看護婦（Enrolled Nurse：EN）養成停止後の状況

）EN 養成停止が看護師不足に与えた影響

結論からいうと、影響はなかった。養成停止後もENはそのまま働き続けることはできたし、RNになる道も開かれていたからである。EN 養成停止後も希望者は移行教育（Conversion Course）を受講しRN 資格を得た。国もRCN(看護協会)もこれを推奨した。

）Nursing Associate の誕生とその特徴

2017年7月、イングランド保健教育局（Health Education England: HEE）は、2年のNA教育のモデル事業を開始した。背景には、イングランドの深刻な看護師不足があった。NA養成の目的は、看護職とケア労働への労働者の大幅な参入を促すこと、看護補助者とRNの間に橋を架けるという新たな役割を担うことである。NAの教育は勤務場所での学習（work-based learning）が強調されているが、カリキュラムは看護職養成同様にHEEが作成し、大学が指導・評価をおこなう。卒業後の免許登録（英国の資格免許は国家試験合格を経るのではなく卒業時に登録される）も、看護職免許同様、NMCが担当する。なお、英国のRNは

基礎教育で成人看護、小児看護、精神保健、知的障害看護の4分野のいずれか1つを選択するが、NAは分野のしぼりのないGeneralな資格である。

NA第一期生2000人は2019年1月に卒業し、2018年5000人、2019年7500人の入学を計画している。

(3)考察 日本における准看護師制度のゆくえと、これからの看護職養成制度モデル

諸外国をみると、最も近隣のASEAN諸国は看護基礎資格一本化の方向であり、インドネシアのようにすでに准看護師養成を廃止した国もある。英国は、先進国の中でも日本の准看護師制度に類似した養成制度を有していたが、30年前に廃止し、現在も復活する兆しは全くない。国際標準からみても、日本の准看護師制度に意義を見出すことはできない。

英国で新設されたNursing Associate制度の主要な目的は、RNへの橋渡しである。これは、RN課程の大学化による間口の狭さを解消し、意欲のあるものを入学させることで職場定着も促進される。

日本にはそもそも看護補助者の公的な養成制度はない。介護福祉士は福祉領域の職種として誕生し、医療と福祉が縦割りの日本では、ことにその経験やキャリアが医療分野にスムーズには移行させにくい。現在、看護師不足だけでなく、看護補助者不足も生じている。看護補助の魅力を高めるためにも、看護師課程に橋渡しのある公的な看護補助者教育の創設が有効であると考えられる。

(4)結論

以上の考察をふまえて、わが国においては、准看護師養成の停止による看護基礎教育の一本化と、看護師課程との連続性を担保した公的な看護補助者養成制度との組み合わせが、今後の少子高齢人口減少社会を担うために、最も合理的な看護職養成制度であると考えた。

引用文献

赤枝恒雄(2014) 今こそ准看護師の養成が必要だ、日経メディカル A ナーシング 2014.8.14 配信

林千冬(1990).准看護婦養成所学生の就学・就労の実態,日本労働社会学年報,1,119-211.

林千冬(2009).准看護師制度問題,看護教育学,82-92,南江堂.

放送大学学園学務部連携教育化資格取得支援係(2014).准看護師養成所入学生におけるニーズ調査.

厚生省准看護婦問題調査検討会報告書(1996),准看護婦問題調査検討会報告書・資料と解説,2-6,医学書院.

NMC,Standard of proficiency for nursing associates,www.nmc.org.uk (2019).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 林千冬	4. 巻 607
2. 論文標題 厚労省「医師・看護師等の働き方ビジョン」報告書の問題点 あらためて看護の専門性とは何かを考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医療労働	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林千冬	4. 巻 31
2. 論文標題 准看護婦(師)制度の政策過程を考える 准看護婦(師)制度を考える 当事者こそが歴史を切り拓く主体である	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護歴史学会誌	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶋澤恭子、高田昌代、林千冬、奥山葉子、藤井ひろみ、吉岡恵梨	4. 巻 20
2. 論文標題 ラオス・マホソット病院視察報告	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 神戸市看護大学紀要	6. 最初と最後の頁 79-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 樋口佳耶，林千冬
2. 発表標題 特定看護師(仮称)養成 調査試行事業/業務試行事業」出身者に関する研究の動向
3. 学会等名 第3回神戸看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林千冬
2. 発表標題 看護制度一本化へ！私たちの力と心をひとつに
3. 学会等名 全国准看護師看護研究会第26回総会看護研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林千冬
2. 発表標題 准看護婦（師）制度を考える 当事者こそが歴史を切り拓く主体である
3. 学会等名 日本看護歴史学会第31回学術集会記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林千冬、益加代子、グレッグ美鈴
2. 発表標題 ：看護師2年課程通信制を卒業した看護師が感じる働き方の変化
3. 学会等名 ，第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	グレッグ 美鈴 (Gregg Misuzu) (60326105)	神戸市看護大学・看護学部・教授 (24505)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	益 加代子 (Eki Kayoko) (80511922)	大阪府立大学・看護学研究科・准教授 (24403)	
研究 分 担 者	花井 理紗 (Hanai Risa) (70758705)	神戸市看護大学・看護学部・助教 (24505)	